日本聖公会 東京教区　小金井聖公会

～やすらぎの響きに包まれて～
パストラル・ハープのつどい

神の霊がサウルを襲うたびに
ダビデが傍らで竪琴を奏でると
サウルは心が安まって気分が良くなり
悪霊は彼を離れた。
（サムエル記上16:23）

この講演会では、リラ・プレカリア養成講座を立ち上げたキャロル・サック氏の
パストラルハープの実践的精神の中心について、また出会った患者様の物語などを紹介。
最後に、ハープと歌の響きの中で、みな様がありのままに、心に思い出される“何か”とともに、
ただ、ゆったりと祈りのハープに身を委ねてくださいますように。　《裏面にて詳細をご覧ください》

日時：2024年10月5日（土）

《入場無料》 13:30～15:00

小金井聖公会　　小金井市緑町4丁目13－4

※お車でのご来場はご遠慮くださいますよう、お願いを申し上げます。

「ハープの響きの恵みを通して」

世界中を危機と不安に陥れたコロナ禍がありました。大きな自然災害が起こり、これからの災害発生の警笛も鳴らされています。人間が引き起こしている悲惨な戦争や争いが今も続いています。また、人はその人生において、病や命の危機の出来事にあって、自らの命のあり方について見つめています。私たち全ての者は、自らの命と存在について、希望と解放と癒やしの恵みの力を求めています。今回の小金井聖公会の講演会で、この求められている力を、パストラルハープの響きを通して実践されている「リラ・プレカリア」のメンバーの方々から学びます。神は私たちに音楽の恵みを与えて下さいました。ぜひ、お越しくださいますように、ご案内申し上げます。

小金井聖公会牧師　司祭　高橋顕

講師紹介　・キャロル・サック

アメリカ福音ルーテル教会宣教師　／音楽死生学士

「リラ・プレカリア～祈りのたて琴～」ディレクター　パストラルハープ奉仕者

・大石千絵（ルーテル教会）　リラ・プレカリア第4期修了生　パストラルハープ奉仕者

・中川愛弓（聖公会）　リラ・プレカリア第5期修了生　パストラルハープ奉仕者

ハープは、心身の痛みを和らげ、魂を解放し癒す「祈りの道具」として、紀元前より人々の暮らしの中で使われてきました。アメリカでは 1970 年代のホスピス運動の中、ミュージック・サナトロジー（音楽死生学）が起こされ、ハープと歌が臨床ケアに用いられるようになり、世界的にもホスピス・ケアの先駆的な取り組み等でよく知られているモンタナ州ミズーラ市には、その実践者育成のため「Charis of Repose Project of Music Thanatology（CORP）」＝「安らぎの聖杯プロジェクト」という教育機関もできました。

1982年、アメリカ福音ルーテル教会から日本に派遣されていたキャロル・サック宣教師は、その後、 CORP での2年間の教育を修め、音楽死生学士の認定を受けた後、日本福音ルーテル社団 JELA（現在は公益財団）から『日本でも苦難にある人々にハープと歌による「生きた祈り」を届ける活動を広めて欲しい』という依頼を受け、奉仕者育成事業としての「研修講座リラ・プレカリア（祈りのたて琴）」のディレクターに就任しました。講座はキリスト教会の教師や学識者、音楽家、医療従事者などからの授業協力も得て 2004 年～2018 年まで開講されました。日本各地からの志願者は詩編の「スピリチュアリティと祈り」を土台とする「パストラルハープ」の修得に臨み、2年間の研修を終えた38名が巣立ちました。 キャロル・サック師が名付けた「パストラルハープ」の、その奉仕の目的はただ一つ「目の前にいらっしゃる方の尊厳、大切さを認めること」です。病床にある方、心身に痛みのある方、お一人おひとりのベッドサイドに行き、その方への「神の愛、魂の平安、み救いの希望」を願い祈りながらハープと歌による「生きた祈り」で寄り添う働きです。　わたしたちパストラルハープ奉仕者は、その方の呼吸、お身体の微細な動きや感情の変化を感じながら、そのご様子にハープと歌を合わせ『あなたの全存在を“大いなるお方”が愛されています』と、祈りの奉仕を続けています。